

授業科目 小児看護学方法論Ⅱ	担当講師名	単位数 1	時間数 30	履修年次・前/後
	専任教員名			2年次/前期
講義のねらい	1 あらゆる健康レベル・発達段階にある小児とその家族に対し、安心して安全な看護が実践できる基礎的能力を身につける。 2 健康障害を持つ小児と家族の看護過程の展開をとおして、具体的な看護援助について学ぶ。			
授業形態	講義・演習		教科書	担当及び時間
講義内容	1 症状別看護 1) 主な症状のアセスメントと看護		①	10
	2 検査・処置を受ける小児の看護 1) 検査・処置の前・中・後の観察と安全・安楽への援助 2) 小児の薬物動態と薬用量の決定 3) 検体採取(採血、採尿、採便) 4) 骨髄穿刺、腰椎穿刺 5) 電法(温電法、冷電法) 6) 与薬、注射、輸液療法 7) 経管栄養 8) 吸引(鼻腔、口腔、咽頭内、気管内) 9) 酸素療法 10) 吸入療法		①	6
	3 小児看護に必要な看護技術 1) 発達段階に応じたプレパレーション 2) 与薬法 3) 輸液療法		②	4
	4 小児の看護過程 健康障害のある小児と家族の特徴をふまえた看護過程展開		①	10
教科書	① 系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① (医学書院) ② 系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 小児看護学② (医学書院)			
参考文献	1 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント (学研) 1 小児看護ビジュアルナーシング(学研メディカル秀潤社) 1 NANDA-I 看護診断 定義と分類(医学書院)			
評価方法	終講試験 1・3 50点 2 50点 合計 100点 終講試験 4 100点			
備考欄	演習は実習室で、演習内容に応じて、白衣や小児の安心につながるエプロンを着用して実施する。 看護過程展開時の記録は小児看護学実習の記録用紙を用いる。 教員とのコンタクトは授業終了後又は終講時に案内する。			